

No.12

豊かな森をつくる 仕事とは？ 間伐体験で 水源林を守ろう

ぐるったネットワーク大町

日本の国土の67%を占める森林ですが、普段なかなか踏み入ることはありません。このプログラムでは、林業従事者の案内で北アルプス山麓の森に入り、間伐を見学します。その後長い時間をかけて育まれた一本の木の年輪を観察したり、のこぎりで枝や丸太を切って活用を考えたりする体験を通じて、天然資源の持続可能な活用やゼロカーボンの意味、自分たちの「つかう責任」について学びを深めます。令和6年から導入される森林環境税の意味を理解するプログラムとしてもおすすめです。木材の活用については、学校の希望と滞在時間に応じて提案します。最も短時間でできるのはコースターですが、スマホ立てやペン立て等のクラフトや、スウェーデントーチの制作も可能です。



実施可能時期	5月6日～11月中旬
所要時間	3時間～
対象	中学生・高校生
対応可能人員	20～100名

多様な生物を育み、水を貯え、CO₂固定機能を高める森林整備

里山を整備する目的は木材生産だけではありません。間伐作業等の森林整備を行うことで、森に光が入り、下草が生え、生物多様性や貯水機能が高まります。さらに間伐後数年のうちに、CO₂固定機能も間伐前より向上することがわかっています。



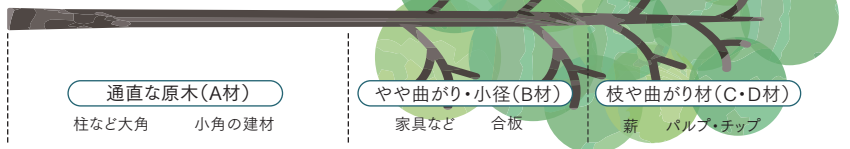
案内してくれるのは現役の林業従事者の皆さん

① プログラムの流れ

はじめの会 == 森林散策 == 選木と説明
 == 伐倒見学 == 年輪観察 ==
 ノコギリで玉切りや枝払い体験 == 終了
 (別にクラフト制作や木こりとの交流などのご相談に応じます。)

信州で学ぶ「未来の森づくり」プロジェクト

一本まるごとの活用イメージ



Learning Point

探究学習のポイント

オンラインで事前学習のサポートが可能です。

事前学習

課題の明確化

森林の機能や間伐の意味を学ぶ

- ① 森林の多面的価値や機能について調べる
- ② 森林環境税について調べ、森の整備に自分たちの税金が使われていることを知る
- ③ 森林整備の意義と方法を学ぶ
(林業従事者によるオンライン授業可)

現地学習

答えを導く

- ・林業従事者の案内で森林を観察し、間伐する木を選び、伐倒作業を見学する
- ・伐った木の年輪を数え、その木の一生を推測する
- ・造材や枝払い作業を体験する(クラフト等への活用は希望に応じます)

事後学習

掘り下げる

- ・木材の活用を考える
- ・ゼロカーボンを達成するためにできることを調べる



木を切ることは自然破壊！？ 間伐体験で水源林を守ろう

事前学習

課題の明確化

森林の機能や間伐の意味を学ぶ

- ①森林の多面的価値や機能について調べる
- ②森林環境税について調べ、森の整備に自分たちの税金が使われていることを知る
- ③森林整備の意義と方法を学ぶ

現地学習

答えを導く

- ・林業従事者の案内で森林を観察し、間伐する木を選び、伐倒作業を見学する
- ・伐った木の年輪を数え、その木の一生を推測する
- ・造材や枝払い作業を体験する(クラフト等への活用は希望に応じます)

事後学習

掘り下げる

- ・木材の活用を考える
- ・ゼロカーボンを達成するためにできることを調べる